

2004年9月の日本の天候

台風2個が上陸し各地で被害、残暑厳しい

9月の天気概況

上旬と下旬を中心に前線や台風の影響を受けたため、ほぼ全国的に曇りや雨の日が多かった。一方、太平洋高気圧が平年に比べ北に位置したことにより寒気の南下は少なく、南西諸島を除き高温となり残暑が厳しかった。

上旬は台風第18号が沖縄本島付近を通過、長崎県に上陸した後、日本海を北上したため、西日本や南西諸島を中心に大雨となり、各地で記録的な暴風となった。下旬末には台風第21号が南西諸島に接近後、鹿児島県に上陸し、西日本、東日本、北日本を縦断するコースを通ったため、各地で大雨や暴風となった。

上旬：前半は本州上を前線がゆっくり南下し、東・西日本や南西諸島では曇りや雨の日が多く、局地的に大雨となったが、北日本では晴れた日が多かった。その後、大型で強い台風第18号が5日に沖縄本島付近を通過、7日に長崎県に上陸した後、日本海を北上したため、西日本や南西諸島を中心に大雨となり、各地で記録的な暴風となった。旬平均気温は、北日本で高いほかは平年並だった。旬降水量は、北日本で少なく、東日本日本海側と西日本太平洋側で平年並のほかは多かった。旬日照時間は、北日本で平年並のほかは少なかった。

中旬：天気は数日の周期で変化し、高気圧に覆われ晴れた日が多かったものの、13～14日にかけて低気圧や前線の影響でほぼ全国的に雨が降り、西日本では上空に強い寒気が入って大気の状態が不安定となり局地的な大雨の降る日もあった。南西諸島では中頃まで台風第20号や南からの暖かい湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。旬平均気温は、東・西日本で高く、北日本、南西諸島で平年並だった。旬降水量は、北日本日本海側と南西諸島で多く、東日本太平洋側で少なかったほかは平年並だった。旬日照時間は、南西諸島で少なく、西日本日本海側で平年並だったほかは多かった。

下旬：高気圧に覆われ晴れる日もあったが、前線や台風の影響を受けほぼ全国的に曇りや雨の日が多かった。下旬後半には台風第21号が南西諸島に接近、29日に鹿児島県に上陸後、西日本、東日本、北日本を縦断するコースを通ったため各地で大雨や暴風となった。旬平均気温は、全国で高かった。旬降水量は、南西諸島で平年並のほかは多かった。旬日照時間は、南西諸島で平年並のほかは少なかった。

9月の気候統計

平均気温：ほぼ全国的に平年を上回り、北海道オホーツク海側と東北地方の日本海側から九州地方にか

けての広い範囲で平年を1℃以上上回った。9月の真夏日（日最高気温30℃以上）の日数は、東日本と西日本で平年を上回ったところが多く、8月までの真夏日の日数と合わせて、東京、大阪、熊本など12地点で年間の真夏日の日数の最大値を更新し、5地点で1位タイとなった。

降水量：東北地方北部と東海地方から南西諸島にかけては平年を上回り、平年の170%以上となったところがあった。厳原（長崎県）では9月の月降水量の最大値を更新した。一方、北海道と東北地方南部から東日本にかけては平年を下回ったところが多く、白河（福島県）では月降水量の最小値を更新した。

日照時間：北日本の一部と西日本では平年を下回った。中国、九州地方では平年の80%以下となったところが多く、浜田（島根県）、山口（山口県）、厳原（長崎県）、延岡（宮崎県）、人吉（熊本県）では9月の月間日照時間の最小値を更新した。一方、関東地方では、平年の120%以上となったところがあった。

（気象庁観測部統計室）

9月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量の多い方から(mm)
厳原 362.0
- ・月降水量の少ない方から(mm)
白河 143.5
- ・月間日照時間の少ない方から(時間)
浜田 94.5 山口 86.9 厳原 64.1
延岡 94.0 人吉 94.4

2004年9月の平年差(比)図

